

NHK環境報告書 2023

NHK

Copyright NHK (Japan Broadcasting Corporation). All rights reserved.

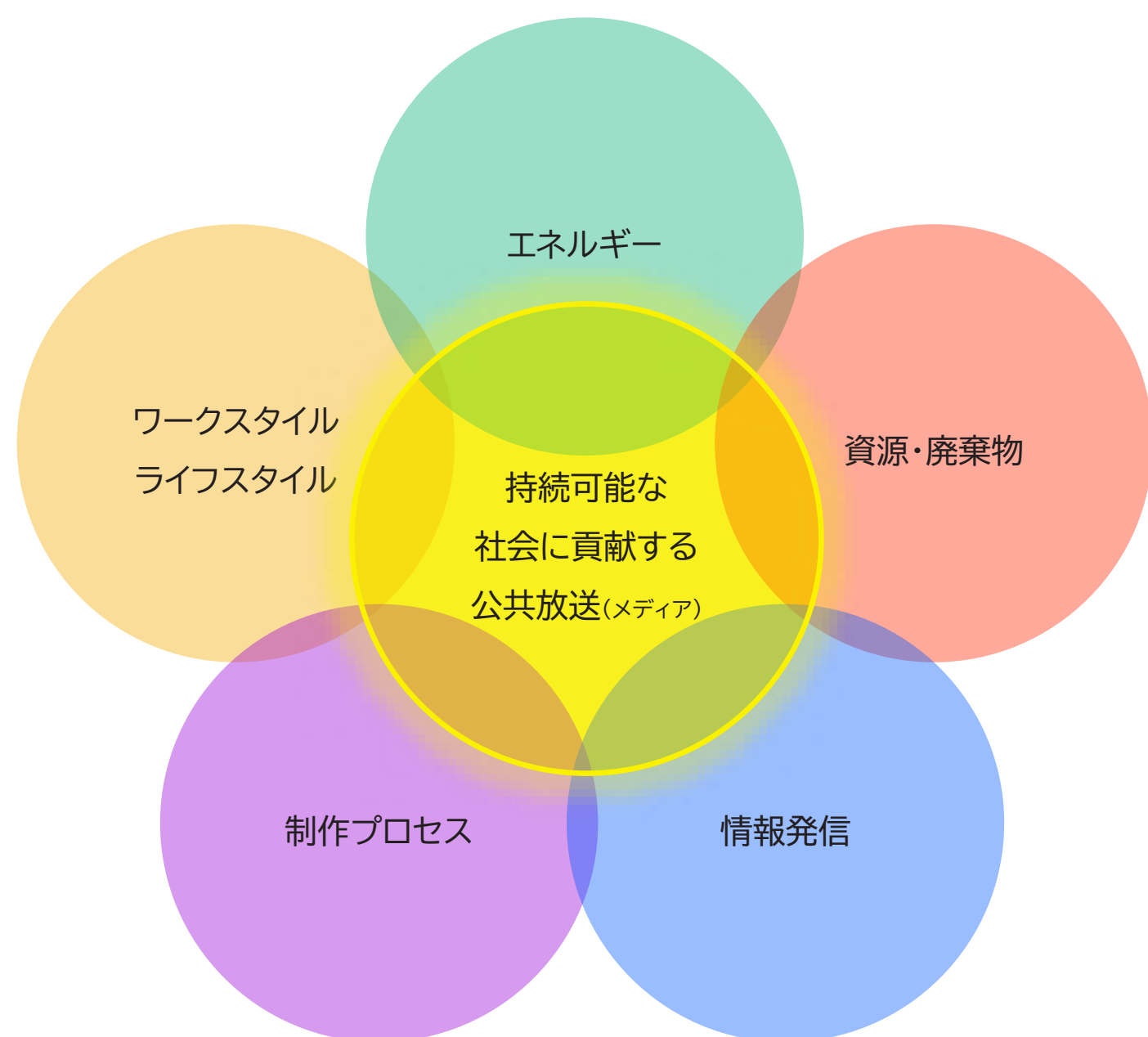
発行 2024年3月

環境経営で取り組む5つの領域

気候変動問題は、私たち一人ひとりにとって避けることができない世界共通の課題です。NHKはコンテンツでの発信をはじめ、組織としても脱炭素社会・循環経済の実現に向けて取り組み、持続可能な社会に貢献する公共放送(メディア)を目指します。

エネルギー領域では、エネルギーを減らす、選ぶ、作るの取り組みにより、2030年度末までにCO2排出量を50%削減します(2018年度比)。番組などコンテンツの制作プロセスでは、資源循環や廃棄物の削減を推進し、環境に配慮した制作手法の開発に取り組めます。

取り組む 5つの領域



エネルギー

2050年までのカーボンニュートラル実現を目指し、エネルギーを減らす、選ぶ、作るの3つの取り組みで2030年度末までにCO2排出量を50%削減(2018年度比)

資源・廃棄物

廃棄物の排出抑制と資源循環の取り組み強化

情報発信

ニュースやコンテンツでの情報発信
環境報告書による環境経営の取り組みの公表

制作プロセス

環境に配慮した制作手法の開発・CO2排出量の把握

ワークスタイル ライフスタイル

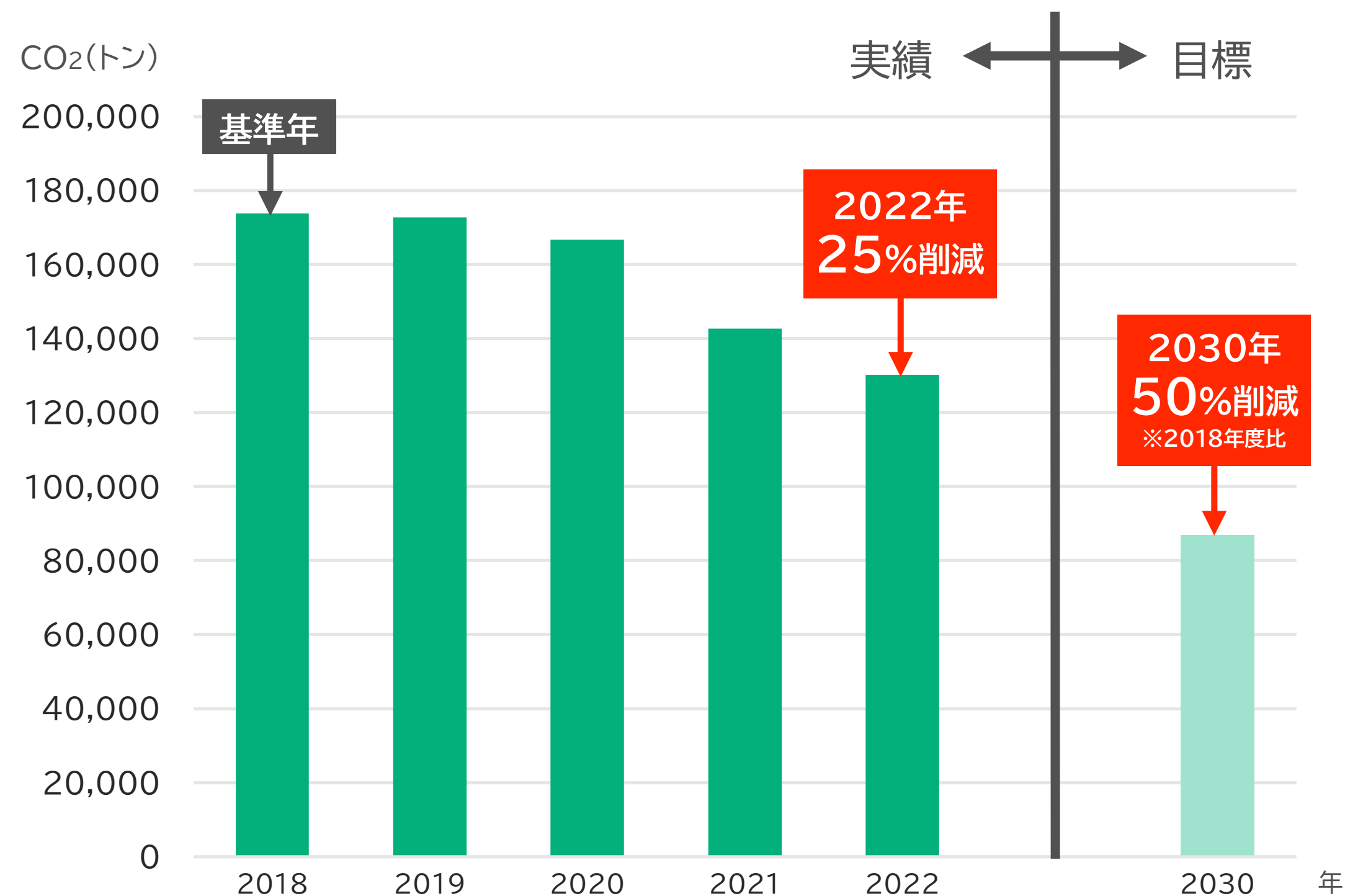
気候変動関連の研修実施、リモートワークの推進・活用
マイボトル推進、環境に配慮したオフィスの構築

カーボンニュートラルに向けたCO₂削減目標

目標

2050年までの
カーボンニュートラル実現
をめざします。

2030年度末までに
CO₂排出量を**50%削減**します。
※2018年度比



施策

エネルギーを減らす

照明のLED化、省エネ型設備や電気自動車等の導入により、使用エネルギーの削減を進めていきます。

エネルギーを選ぶ

放送センターや名古屋放送局をはじめ、順次全国の放送局に再生可能エネルギーの導入を拡大していきます。

エネルギーを作る

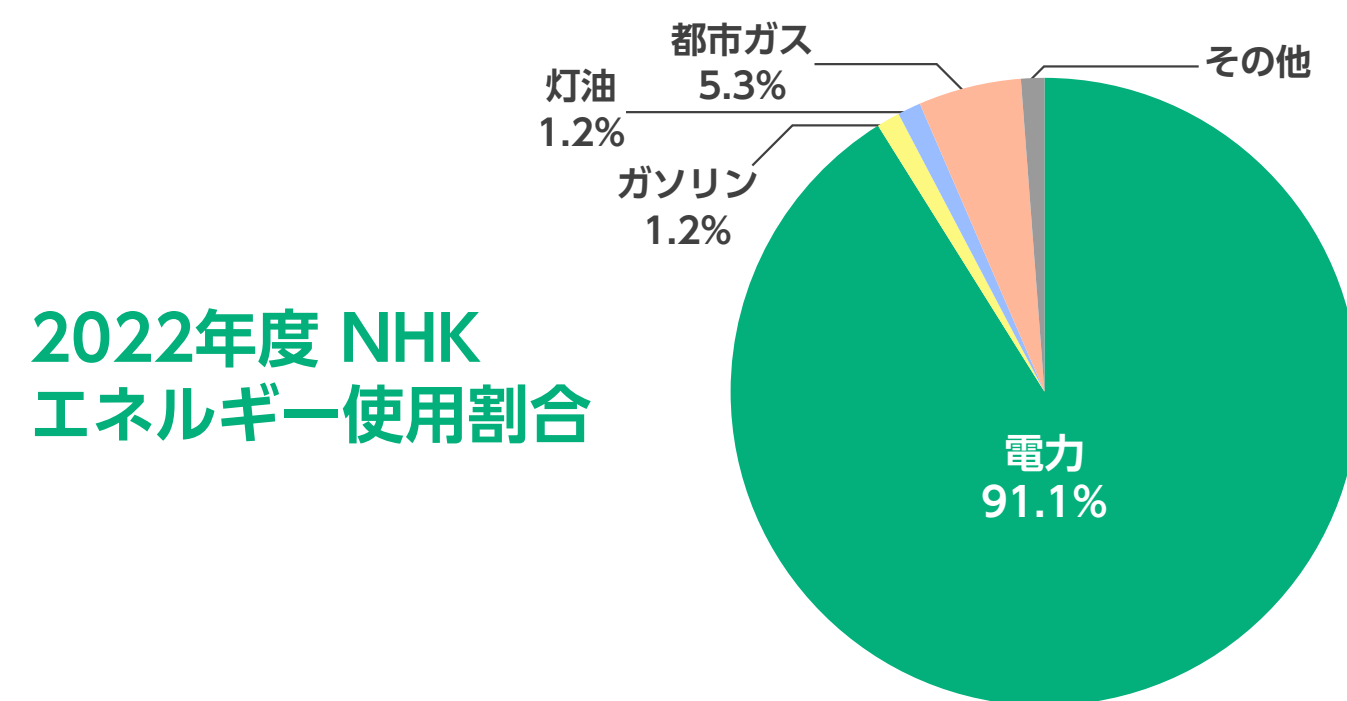
菖蒲久喜ラジオ放送所や全国の放送局に導入している太陽光発電設備を用いて、自ら再生可能エネルギーを発電していきます。

NHK のエネルギー使用概要

NHK には、東京・渋谷の放送センターをはじめ全国に 54 の放送局があります。これに加え、視聴者の皆さまにテレビやラジオの電波を送り届けるために放送所や中継所の放送施設が 3,000 局以上あります。その他に、研究所やアーカイブス、視聴者コールセンターなどの施設を運用しています。

| NHK のエネルギー使用について

2022 年度は NHK が使用したエネルギーのうち 91.1% が電力で、次いで都市ガス (5.3%)、ガソリン (1.2%)、灯油 (1.2%) となっており、そのほとんどを電力使用が占めています。



エネルギー使用量	NHK			NHK と関連団体	
	2022 年度	2021 年度	増減	2022 年度	2021 年度
電力 [千 kWh]	314,026	318,769	▲ 4,743	330,422	-
ガソリン [kL]	1,000	982	18	1,198	-
軽油 [kL]	315	253	62	387	-
A 重油 [kL]	628	628	0	639	-
灯油 [kL]	1,003	926	77	1,054	-
都市ガス [m ³]	3,514,695	3,493,949	20,746	3,617,512	-
プロパン [kg]	405	394	11	3,459	-

※本報告データは、国内施設におけるエネルギーと車両燃料について掲載しています。

NHKのエネルギー使用概要

NHKのCO₂排出量

2022年度にNHKが全国で使用したエネルギーをCO₂排出量に換算すると130,210tでした。昨年度と比べ12,436t削減、2018年度比で25%削減されています。

CO ₂ 排出量 [t-CO ₂]	NHK			NHKと関連団体	
	2022年度	2021年度	増減	2022年度	2021年度
電力	114,979	127,898	▲12,919	121,895	-
ガソリン	2,321	2,279	42	2,780	-
軽油	815	655	160	1,001	-
A重油	1,700	1,701	▲1	1,730	-
灯油	2,497	2,306	191	2,623	-
都市ガス	7,896	7,806	90	8,127	-
プロパン	2	1	1	11	-
合計	130,210	142,646	▲12,436	138,167	-

※算定方法は、「エネルギーの使用の合理化などに関する法律」および「地球温暖化対策の推進に関する法律」に準拠しています。

東京都「温室効果ガス排出総量削減義務」

東京都の「温室効果ガス排出総量削減義務と排出量取引制度」では燃料、熱、電気の使用量が原油換算で1,500kl以上の都内の事業所を対象にCO₂の削減が義務付けられています。NHKでは「放送センター」と「放送技術研究所」が対象施設です。第3計画期間(2020～2024年度)の5年間は、期間中のCO₂排出量を基準排出量に対して、27%以上削減することが求められています。NHKでは「温室効果ガス排出総量削減義務」を着実に履行するように取り組んでいきます。



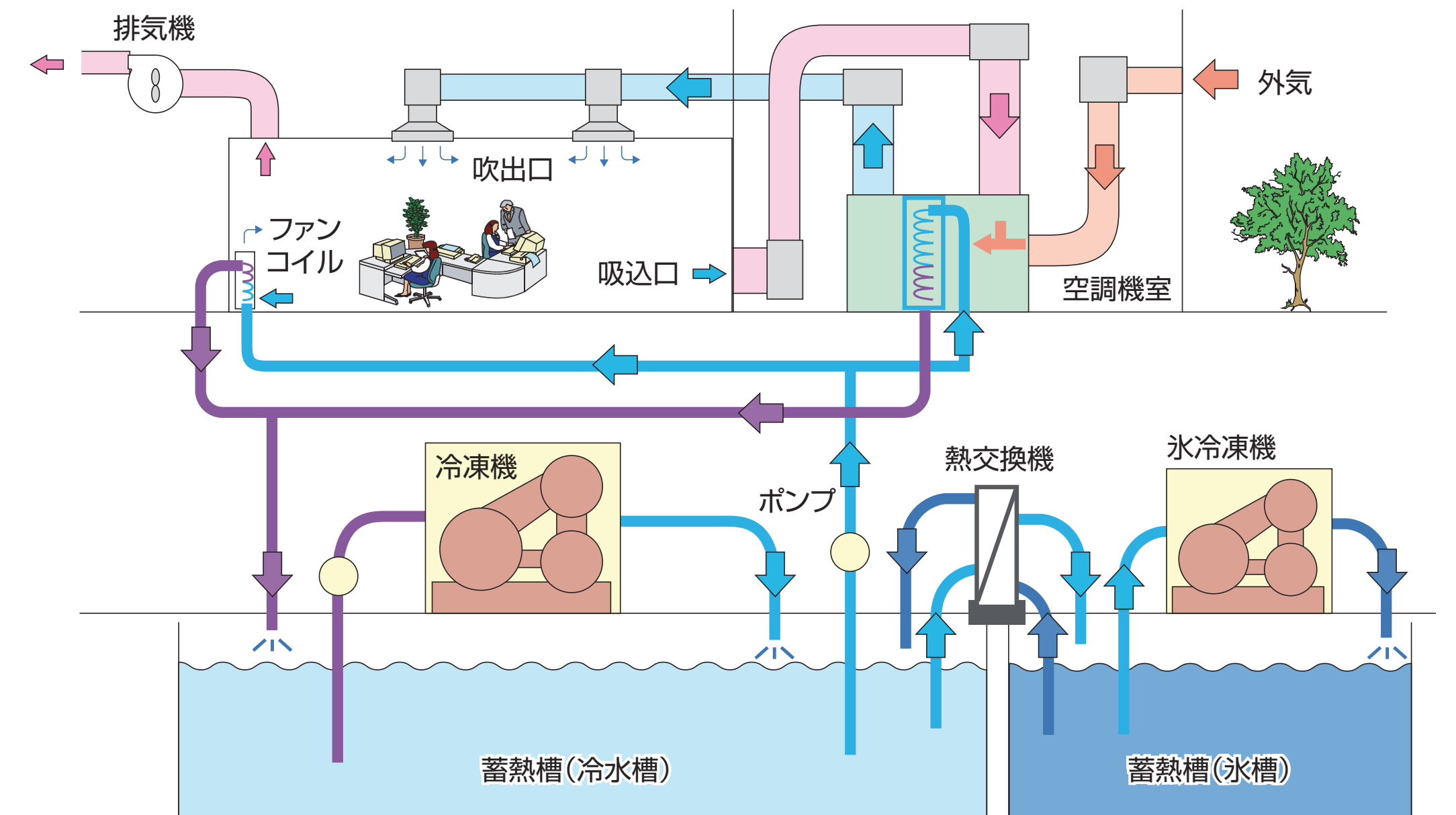
職場での省エネ対策の推進

新しい設備の導入や運用方法の工夫によって、より効率的な省エネに努めています。

蓄熱式空調システムの導入

全国の放送局（地域冷暖房を利用している放送局を除く）において、夜間電力で作成した「冷水・温水」や「氷」を水槽に蓄え、昼間の冷暖房に使用する「蓄熱式空調システム」を導入し、効果的な省エネルギー化を実現しています。

東京・渋谷の放送センターでは、蓄熱システムを有効に利用して電力会社の電力需給が逼迫する時間帯に冷房に使用する電力を平準化することで電力使用量を削減しています。



蓄熱式空調システムの概要

職場での省エネ対策の推進

設備更新や新開発設備による省エネ

老朽化した空調設備を更新する際には、高効率な設備を導入して省エネに配慮しています。

放送センターでは2014年度までに6台の蒸気発生機（小型ボイラー）を高効率型に更新しました。

空調運用における取り組み

全国の放送局でクールビズ、ウォームビズを実施、事務室の室温を夏期は28℃、冬期は20℃を原則にして省エネに努めています。

新会館建設時には、中温冷水を利用した蓄熱槽や井水の活用などによる高効率な空調システムなどを採用し、省エネに努めています。

放送機器室は冷房による温度管理が必要ですが、空調の吹き出し方向や風量を調整することで、機器が効率的に冷房されるようにしています。さらに、温度設定を高くする、運転台数を見直すといった空調の適切な運用により、省エネを推進しています。

スタジオの冷房も、運用時間に合わせた必要最小限の運転や、放送に影響ない範囲での温度設定の見直しなど、細やかな工夫で省エネに取り組んでいます。

放送センターの照明における節電

放送センターでは照明を中心に省エネを進めています。日常の運用では間引き点灯、安全性を確保した上での最小限の点灯、昼休みの一斉消灯など、こまめな節電に努めています。また、消費電力の少ないLEDの導入も積極的に進めています。



東館1階喫茶（丸コア）

放送設備の省エネ化

放送技術の分野では、環境負荷の軽減につながる放送設備や機器の開発・導入を進めています。

スタジオ照明の省エネ化

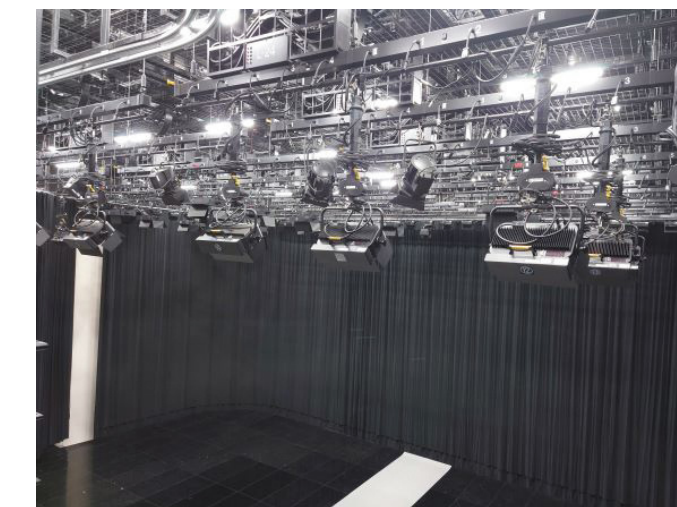
■ LED 照明

NHK では、環境負荷軽減の 1 つとして、スタジオ照明設備の使用電力量の削減に積極的に取り組んでいます。

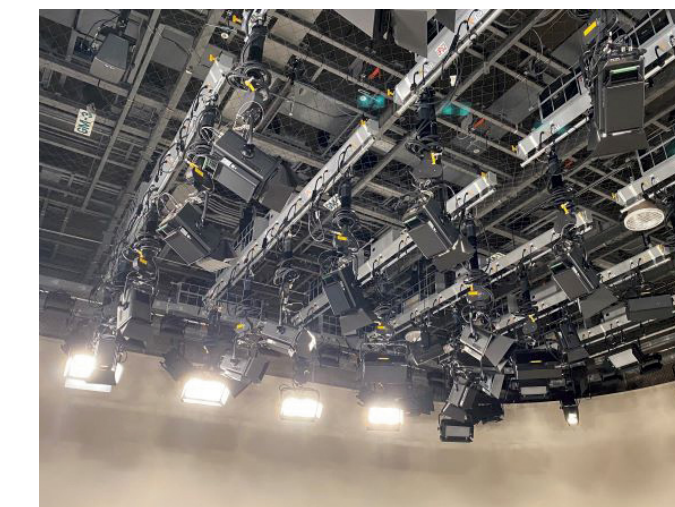
従来の白熱灯に代わる照明器具として、LED を利用したスポットライト（一点を集中的に照射）、フラッドライト（反射鏡により広域照射）、 horizontallight（スタジオ壁面を照射）をメーカーと共同開発しました。

これらの LED 照明器具は、番組制作に要求される明るさや色再現性などの性能を確保しながら、従来の白熱灯に比べて消費電力を約 80% 削減することができます。また、発熱も少ないため、スタジオ内の空調のための消費電力も削減することができます。全国の放送局のニュースや情報番組を制作するスタジオを中心に、LED 照明器具の導入を進めています。

2022 年度は新・富山放送会館、新・松江放送会館、釧路放送局、北見放送局、室蘭放送局、秋田放送局、鹿児島放送局、沖縄放送局に、2023 年度は長崎放送局、宮崎放送局に導入しました。2023 年度末現在、渋谷・放送センターの 16 スタジオと全国 50 の放送局のスタジオで日々の番組制作に活用しています。



札幌放送会館 T1 スタジオ



CT-512 スタジオ



CU-558 スタジオ

放送設備の省エネ化

放送会館の建設

■新・松江放送会館

2023年3月にオープンした新・松江放送会館は、環境に配慮したさまざまな施策の導入により床面積当たりのCO₂排出量を、旧会館より約25%削減する計画としています。

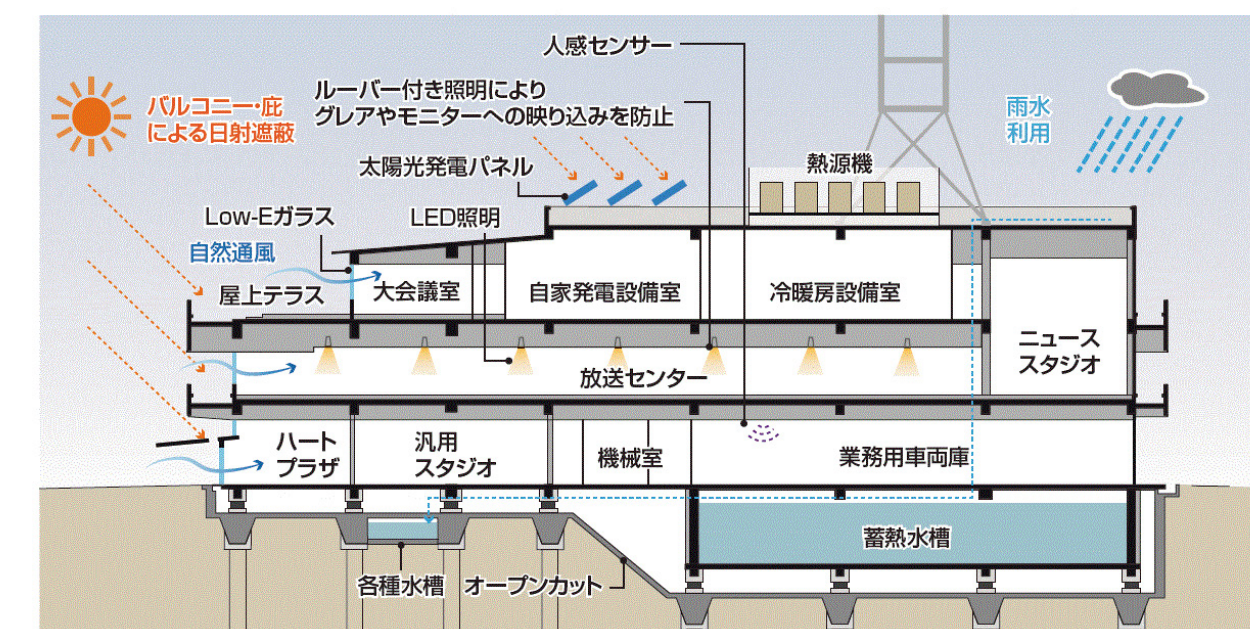
蓄熱槽と高効率な冷凍機の導入、冷却塔の冬季活用による電力消費量の削減、外気冷房の導入、Low-E ガラス（ガラスの表面に金属膜コーティングした複層ガラス）による熱負荷軽減、全館LED照明の採用、太陽光発電など、環境に配慮した建物になっています。



新・松江放送会館の外観



太陽光発電設備



新・松江放送会館の省エネルギー技術

放送設備の省エネ化

送受信設備の省エネ化

■送信設備の省エネ化（基幹局テレビ送信機の更新）

テレビ放送所（基幹局）では、地上デジタル放送開始時に整備し、老朽化が進んだ送信設備を順次更新しています。

新送信機は、電力増幅部に高効率な増幅方式とデバイスを採用し、温度により冷却ファンの回転数制御を行うことで、消費電力を従来機の約半分に削減することができます。また、発熱量も抑えられるため、空調設備の小規模化にもつながります。

2022年度は青森放送局、福島放送局、鹿児島放送局、広島放送局、2023年度は札幌放送局、熊本放送局および甲府放送局の送信設備の更新を実施しました。今後も、消費電力とCO₂削減を推進していきます。



福島・笹森山テレビ放送所（基幹局）送信機

エネルギーを作る取り組み

太陽光発電設備の設置

菖蒲久喜ラジオ放送所（埼玉県久喜市）や全国の放送局の敷地内に太陽光発電設備を導入し、自らクリーンな電力を作り、使用しています。



菖蒲久喜ラジオ放送所（埼玉県久喜市）のメガソーラー

マイクロ水力発電システムの設置

放送センターと福岡放送局では、空調で使用する冷温水の落差を利用して発電するマイクロ水力発電システムを設置しています。



エネルギーを選ぶ取り組み

再生可能エネルギーの導入

2022年度は名古屋放送局で使用する電力の再エネ100%化をはじめ、一部の放送局で再エネを導入。

2023年度は放送センター・大阪放送局・名古屋放送局で使用する電力量分の再生可能エネルギー導入を予定しています。

	NHK		NHKと関連団体	
	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度
電力 [千 kWh]	314,026	318,769	329,098	-
うち再エネ	62,132	39,902	63,456	-
再エネ比率	19.8%	12.5%	19.3%	-

電動車化の推進・バイオディーゼル燃料の活用

業務用車両の電動車化を推進。電気自動車やプラグインハイブリッド車の導入を進め、全国の放送局に充電スポットの整備を行っています。

また、渋谷・放送センターの自家給油所で使用する軽油を、バイオディーゼル燃料を混合したものに切り替えるなど、CO₂排出量を削減する取り組みを進めています。



研究開発の取り組み

CO₂ 排出量の削減につながる省エネ・創エネに向けた研究開発の取り組みを進めています。

新しい制作手法

番組制作での設備規模縮小やスタッフ省力化を目的として「8K-ROI* スイッチャー制作システム」を開発しました。このシステムは、1台の8Kカメラで撮影した映像の一部の領域を2K映像として同時に複数箇所切り出し、番組用の2K映像として出力します。これにより、従来は複数台の有人カメラで行っていたマルチカメラ制作を1台の8Kカメラと1人のオペレーターで行うことができます。本システムはNHK全国音楽コンクールの制作にも活用されました。CO₂ 排出量削減へ貢献しながら、限られた設備・スタッフでも番組演出の維持・向上が期待できる持続可能な制作手法の確立に向け、引き続き研究開発を進めていきます。

*ROI=Region of Interest, 関心領域

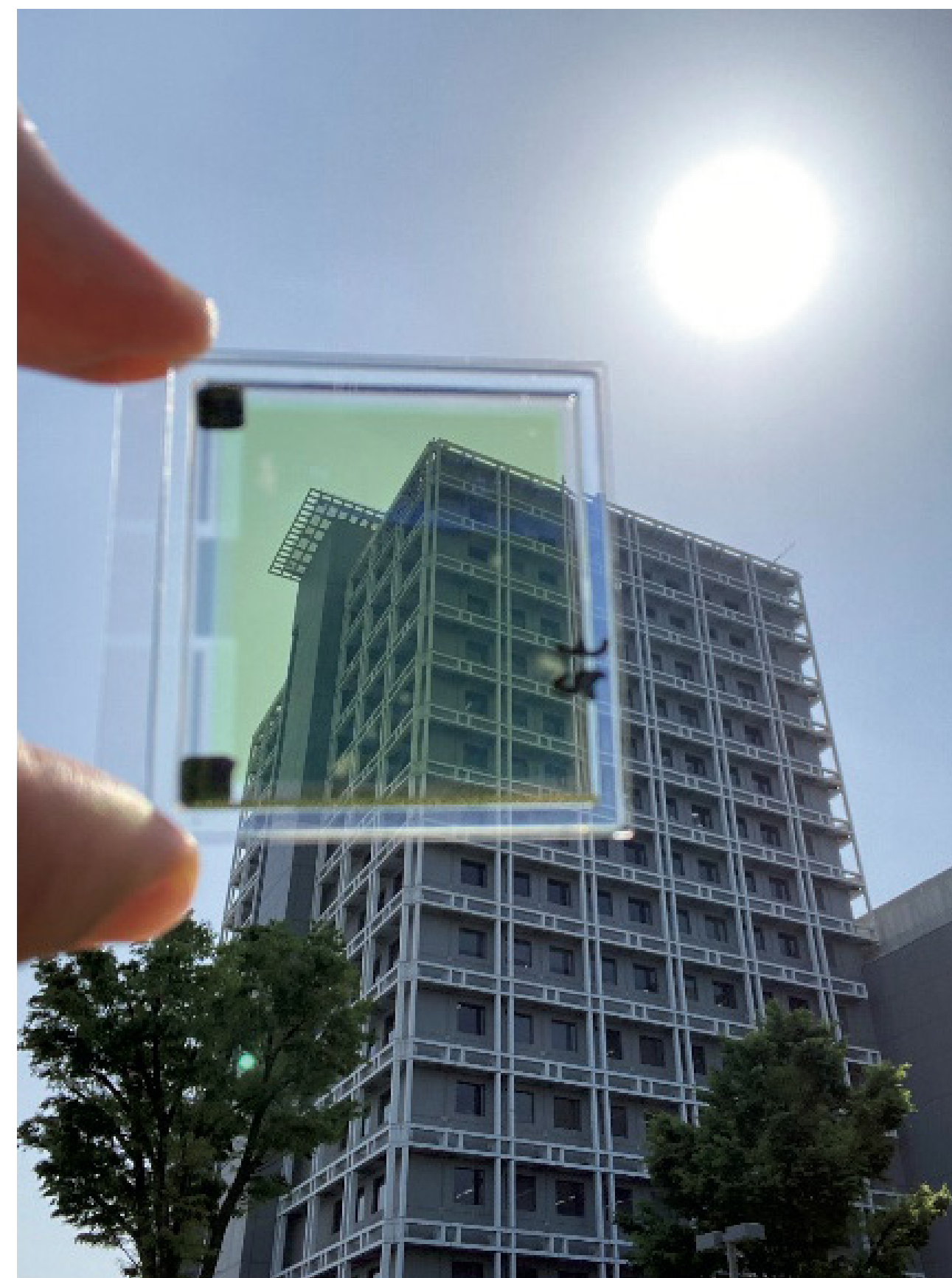


8K-ROI スイッチャー制作システムのオペレーション画面（左：制御端末）

研究開発の取り組み

材料・デバイス技術

丸めることや折りたたむことが可能な薄くて使いやすいディスプレイの実現を目指し、有機ELの研究を進めています。この研究で開発した材料を応用して透明な太陽電池を試作しました。この太陽電池には可視光をほとんど透過することに加え、軽量化が容易であるという特徴があります。将来は放送局の窓や外壁に取り付けて発電し、発電した電力を放送局で利用することを検討しています。このほか、待機電力が不要な記録デバイスの実現に向けた磁性細線メモリーなど、CO₂排出量の削減につながる材料・デバイス技術の研究開発を進めています。



透明な太陽電池

「環境」をテーマにした主なコンテンツ（ピックアップ）

日々のニュース番組で気候変動問題に関する最新情報をお伝えしているほか、NHKスペシャル、クローズアップ現代、BSスペシャル等の番組、Eテレを中心とした子供向けコンテンツ等、放送やデジタルを通じて、幅広い世代に向けて情報発信をしています。



■クローズアップ現代

シリーズ地球沸騰化

総合 2023年11月27・28日（月・火）

(1) 急増“気候難民”故郷追われた先に
気候変動で移住を迫られる“気候難民”が世界で急増。30年後には2億人以上との指摘も。干ばつが続くアフリカ東部などを桑子キャスターが取材。現地から生中継で報告。

(2) 森林大消失“負の連鎖”断ち切る闘い
いま世界各地の森林が急速に消失。それが気候変動に拍車をかける“負の連鎖”が起きている。どう断ち切るのか。桑子キャスターがアフリカから生中継で対策の最前線を報告。

「環境」をテーマにした主なコンテンツ（ピックアップ）



■日曜討論 “地球沸騰の時代” 脱炭素社会への道筋は
総合 2023年12月3日(日)



■時論公論 気候変動対策 迫るタイムリミット
総合 2023年3月30日(木)

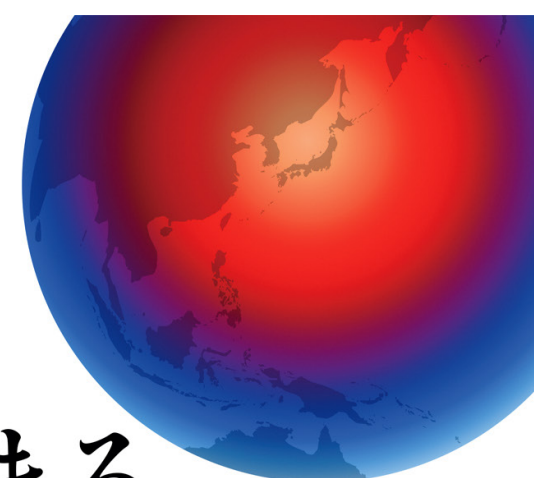
- BS1 スペシャル
脱炭素へのロードマップ ビジネス界 1.5℃目標への挑戦
BS1 2023年4月9日(日)

脱炭素に挑む日本企業のグループ JCLP（日本気候リーダーズ・パートナーシップ）に密着。視察団がエジプト COP27 で受けた衝撃とは！気候変動を食い止める重工業や金融、再エネ、IT の戦略最前線。

1.5°Cの約束—いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。

国連とメディアの共同キャンペーン「1.5°Cの約束」に2023年も参加
気候変動対策のアクションを呼びかけました

人類の未来は、
今後10年の
私たちの行動で決まる。



いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。

1.5°Cの約束 

NHKは、「SDGメディア・コンパクト」という、SDGs達成のために、国連が世界の報道機関などに協力を呼びかけて創った枠組みに加盟しています。前年に引き続き、2023年も国連広報センターと

このSDGメディア・コンパクトに加盟する国内メディアと共に共同キャンペーン「1.5°Cの約束—いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。」に参加しました（キャンペーン期間：2023年3月20日～12月31日）。

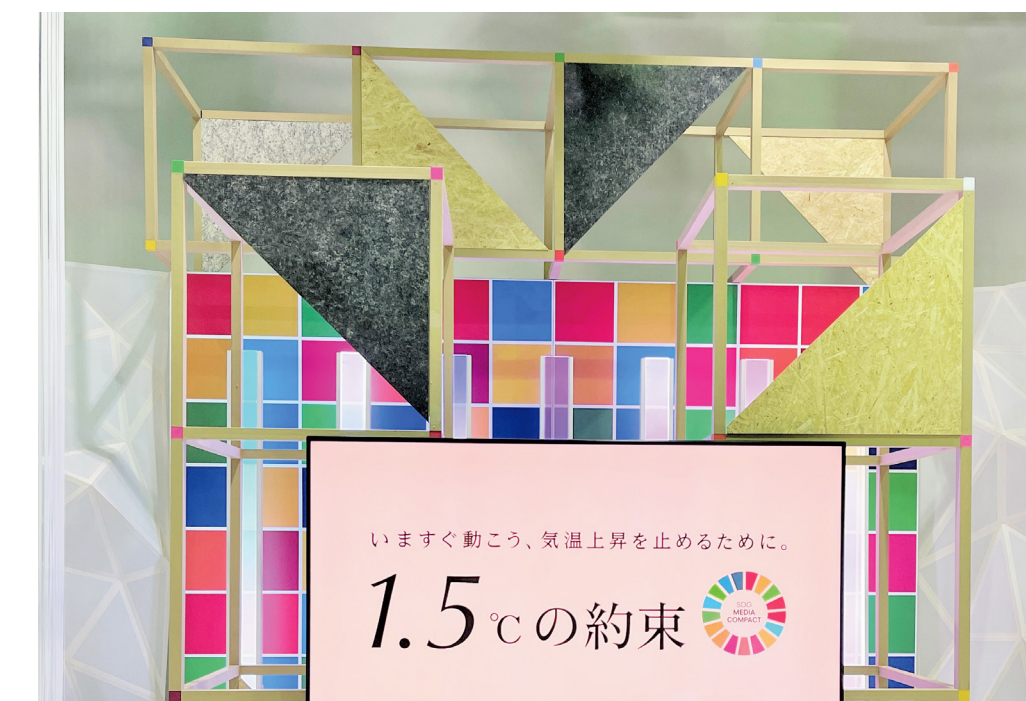
「地球沸騰化」と言われるほどの熱波に世界各地が襲われる中、人間を含むあらゆる生物が地球で暮らし続けていくためには、世界の平均気温の上昇を産業革命前と比べて1.5°Cに抑えることが必要だと言われています。このキャンペーンでは、「1.5°C」という目標を知ってもらうことを通じて、気候変動に歯止めを掛けるための具体的なアクションを提示し、個人や組織に行動変容を促すことを目的としています。NHKでは、9月に在京民放と合同で特集番組や、共通動画を制作すると共に、重点期間を設けて放送やデジタルなどNHKのメディアを連動させて多角的に発信し、社会の関心をより喚起していきました。

1.5℃の約束—いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。

| NHK 民放 6 局連動 環境スペシャル番組



リユース・リサイクル可能なスタジオセット



リユース可能な紙管

■ 1.5℃の約束 いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。
総合 2023年9月24日(日)

NHK と在京民放キー局（日本テレビ、テレビ朝日、TBS、テレビ東京、フジテレビ）が連動して、環境スペシャル番組を制作。前年に引き続き2回目となる今回は、6局のアナウンサーが、気候危機を伝え脱炭素社会に向けて社会を動かすためにいま何ができるのか、本音で語り合いました。



再生素材のテーブル

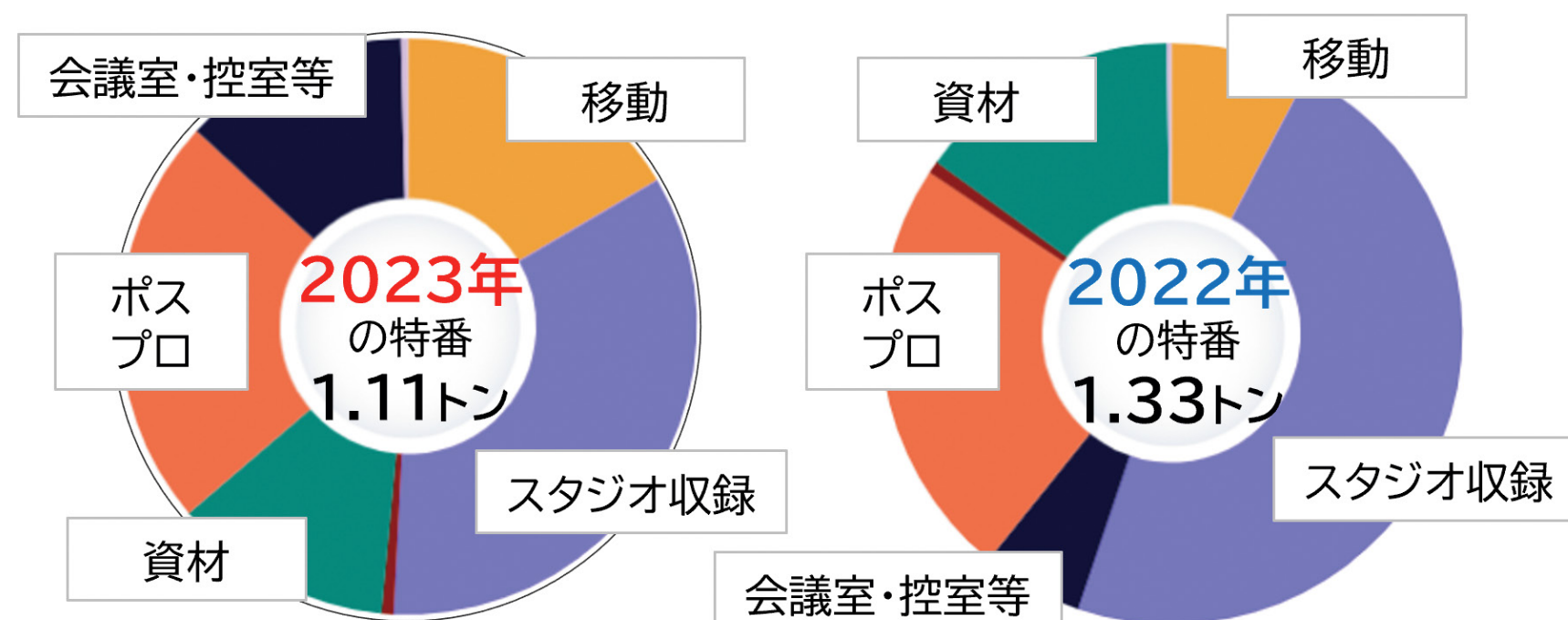


LED 照明のスタジオ

「1.5℃の約束」スペシャル番組での環境配慮の取り組み

今回のスペシャル番組では、美術セットに、再生素材を活用したり、番組後もリユース・リサイクルできるものを選定しました。さらに、番組制作に関連して排出されるCO₂の量を算定するツール（※1）を実験的に導入し、去年との比較や傾向を分析することで、環境に配慮した番組制作を進めていく際の参考にしました。事前にグリーンメモ（※2）といわれる、環境への意識を高めるための目標や具体的な取り組みを記したメモをスタッフで共有し、去年の番組制作時よりもCO₂の排出量を減らしました。

※1 BBCが開発し、現在は「アルバート」という英国の業界コンソーシアムが運営・管理するツール



今回の特番制作のCO₂排出量は1.11トン、前年は1.33トン

「1.5℃の約束」特集番組 関係者の皆様

いまずぐ動こう、気温上昇を止めるために。
1.5℃の約束

=サステナブルな番組作りを目指して、私たちが取り組むこと=

- ・関連資料は電子化し、プリントアウトは最小限にしましょう。
- ・「これは本当に必要な機材か？」を考えて、できる限り機材・荷物を減らし、物の運搬を減らしましょう。
- ・LED照明を使用しましょう。
- ・空調の温度管理に気をつけ、省エネルギーの工夫をしましょう。
- ・美術セットに再生素材を使用したり、無駄の少ない構造を検討し、3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進しましょう。
- ・できるだけ公共交通機関を利用し、CO₂排出量の少ない移動手段を選びましょう。
- ・お弁当や食堂利用の際など、容器はできるだけプラスチックを減らし、“確実にリサイクルされる”素材の活用をしましょう。



※2 事前に共有したグリーンメモ（抜粋）

次世代バーチャルプロダクション開発

バーチャルプロダクション（VP）とは、現実世界と仮想空間をリアルタイムで融合する映像手法です。LEDWALLに映し出す「CG映像」と手前のリアルな美術セットを照明・ライティングの技術を組み合わせ、物語の世界観を創り出し、全てを同時に撮影することができます。NHKでは「どうする家康」「大奥」等の時代劇をはじめ、現代ドラマ「高速を降りたら」等、複数のドラマでこの新技術を活用し、新たな世界観の創造に挑戦し続けています。

<バーチャルプロダクションのもたらす効果>

- ロケのような映像素材が撮影できるだけでなく、ロケでも撮影できない世界観・空間の中でお芝居が撮影可能
- ロケの規模縮小、移動・宿泊の削減、天候リスクの回避、スタジオ収録による効率的な作り方改革の実現
- 美術セットの制作・廃棄物縮小、LED照明とLEDWALLを組み合わせることで、従来の白熱灯照明を主に使用した撮影手法に比べてスタジオ電力消費量が削減、環境経営にも貢献



大河ドラマ「どうする家康」



ドラマ10「大奥シーズン2」



特集ドラマ「高速を降りたら」

「美術セットの3R計画推進」 ～コストの軽減、廃棄物の抑制を推進～

コンテンツ制作にあたっては、美術セット等のデザインを計画する中で、環境負荷の少ない素材を使用したり、無駄の少ないセット構造を検討したりする等、環境に配慮する取り組みを進めています。これまで渋谷の放送センターの廃棄物のうち、およそ3分の1をスタジオの「美術セット」からのものが占めていました。廃材を減らすための3つの“R”「Reduce（ごみを減らす）」「Reuse（繰り返し使う）」「Recycle（廃材をリサイクルする）」の計画を推進しています。

Reduce セットを“作らない”ことで、環境配慮

実物のセット（※右記の写真で手前の地面や草、人物）に大型LEDWALLに映し出されたカメラ連動のCG背景を合わせるインカメラVFXの技術や、グリーン色の背景にバーチャルセットを合成する技術を活用することで、セットに使用する資材を最小限に減らし、廃棄物の抑制を図っています。



大河ドラマ「どうする家康」



[NEWS7]

「美術セットの3R計画推進」 ～コストの軽減、廃棄物の抑制を推進～

Reuse 美術セットを繰り返し使って、廃棄物そのものを減らす

「壁」や「棚」などのパーツを「共通セット」として製作し、番組に応じて組み替えることで、さまざまな異なるセット空間を生み出すことができます。このパーツはあらゆる番組で使用され、セットを共有化することで、制作費の抑制と廃棄量の削減につながっています。現在はこの取り組みをさらに進化させ、CGの共通セット開発も進めています。



共通セット（例）

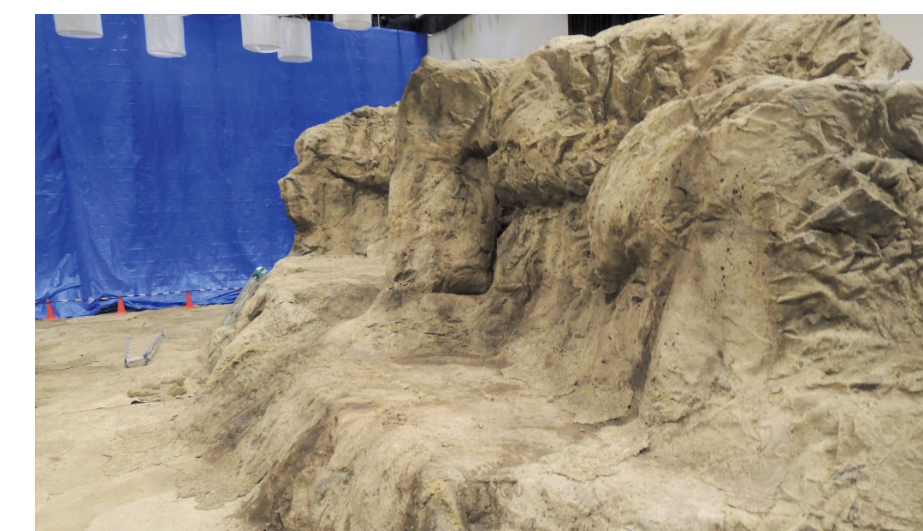


「NHK 短歌」



「1.5℃の約束」

また新しく軽量で運搬しやすいセット用の岩を開発しました。これまでは発泡スチロールを削って製作していましたが、石と砂地の表面をかたどったラバー由来のシートを土台に載せるだけで成形できるようになりました。収納時には平らになり、その容積は従来の発泡スチロール製と比較して90%削減できました。様々な番組で繰り返し使用されています。



「美術セットの 3R 計画推進」 ～コストの軽減、廃棄物の抑制を推進～

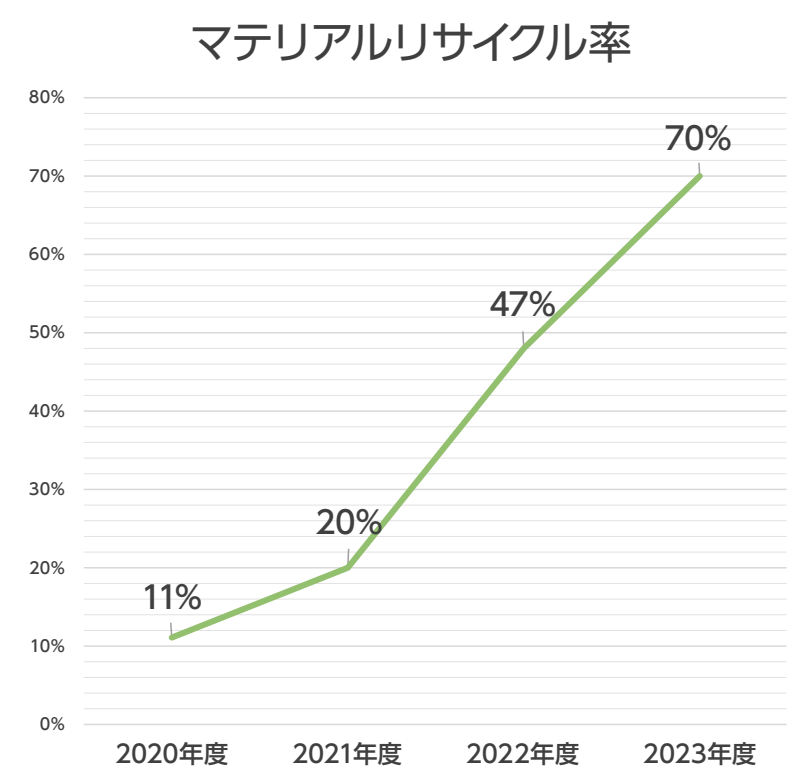
Recycle 美術セットのリサイクルを推進

セットに使用された廃材のリサイクルを推進しています。廃棄物は手作業で金属や木材、塩ビプレート、段ボール、紙など7種類に分別を徹底し、素材のリサイクルを推進しています。

こうした取り組みの結果、2023年度に美術セットから出た廃棄物の量は3年前の2020年度に比べて約20%減少し、燃やしたりせず再び素材に戻るマテリアルリサイクル率は11%から70%に向上しました。



美術リサイクルコーナー

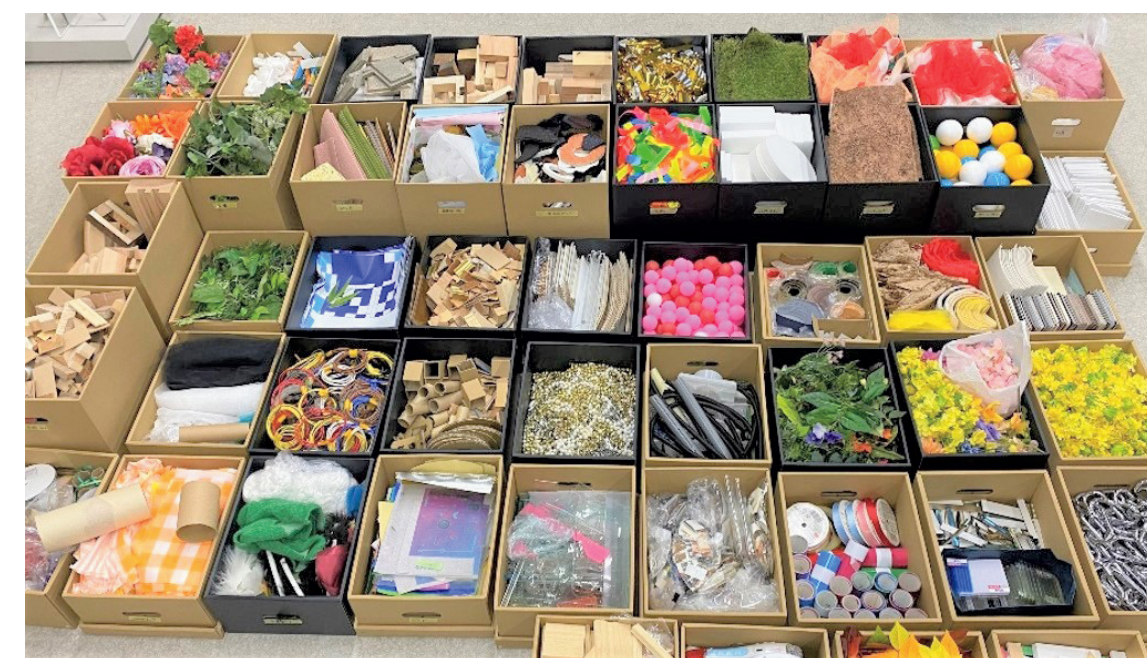


2020年から2023年の推移グラフ

スタジオセットから出た廃材・端材は、イベントなどでも活用されています。

番組で使用したビーズや幕、木材などを用いて親子で参加できる工作のイベントをこれまで全国20か所で開催し、約5000人の方にご参加いただきました。環境問題への関心を喚起するアップサイクル（創造的利用）のワークショップです。

テレビの
カケラで
なにつくろ？



「美術セットの3R計画推進」 ～コストの軽減、廃棄物の抑制を推進～

また教育機関への素材提供を開始し、大学の学園祭や小学校の授業、児童館の工作イベントなどでも活用されています。

特集番組「スゴEフェス」では、教育機関や工作イベント参加の皆さまのご協力により、廃材を使って番組のメインセットを作りました。



豊島区立長崎小学校



武蔵野美術大学 芸術祭



神南ネウボラ子育て支援センター co しぶや



スゴEフェス 2023年11月25日放送

廃棄物の抑制とリサイクル、脱プラの推進

廃棄物を減らすために、さまざまな取り組みをしています。
ごみの分別回収の徹底とリサイクルを推進し、環境への負荷の軽減に努めています。

廃棄物の総量抑制

NHK では、あらゆる段階で資源を効率的・循環的に利用する「循環経済（サーキュラーエコノミー：CE）」の考え方を取り入れ、環境への負荷の軽減に努めています。

<主な取り組み>

1. 東京・渋谷の放送センターに新しいごみステーションを設置し、分別・リサイクル強化
2. ペットボトルの「ボトル to ボトル」リサイクル
3. 食堂の生ごみはバイオガス化して燃料利用へ
4. 事務用品等のリユースコーナーを設け、廃棄を抑制



分別方法をイラストで表示



分別を細分化し、リサイクル率向上へ



リユースコーナー



持ち込み・持ち出しは自由

廃棄物の抑制とリサイクル、脱プラの推進

回収して塵埃処理場に集められたごみは、さらに細かく二次分別しています。2022年度の放送センターの廃棄物総量は1,212tでした。(前年度比157t減)。リサイクル率は産業廃棄物93.6%、事業系一般廃棄物88.6%、全体で91.5%でした。

「ボトル to ボトル」リサイクル

放送センターで2022年度に排出されたペットボトルごみは、23tに上ります。

これまでの処理方法では、ペットボトルごみは繊維製品などにリサイクルされるものの、最終的には埋め立てなどの処分となっていました。

そこで2022年度からは、ペットボトルごみを新しいペットボトルの原料として何度もリサイクルさせる「ボトル to ボトル」リサイクルに取り組んでいます。再生ペットボトルの原料として質の高いものにするためには、職員・スタッフ一人一人が、飲み残しを捨て、ラベルとキャップをはがすことが欠かせません。

また、かさばるペットボトルを圧縮してまとめて排出することで、輸送効率を上げてCO₂削減にもつなげています。



「ボトル to ボトル」リサイクル以前の
廃ペットボトル



ラベルとキャップをはがすことで、
ペットボトルの原料として
繰り返しリサイクルできる

資源・廃棄物の一元管理

2022年4月に施行されたプラスチック資源循環促進法では、事業者がプラスチックごみの削減に計画的に取り組むことが義務付けられました。NHKでは全国の放送局も含めた全体状況を把握したうえで削減目標を設定し、計画的な削減に取り組んでいきます。

全国廃棄物調査の実施 課題の解決へ

全国の放送局を対象として2023年5月に行った第1回全国廃棄物調査では、2022年度にNHK全体として926t以上のプラスチックごみを排出していたことが分かりました。一方、計量単位としてkgのほかにも m^3 や l 、袋など様々な単位が用いられていたり、プラスチックを含む数種類の廃棄物が「混合廃棄物」としてひとまとめになっていたりと、正確な量の把握が難しいことが明らかになりました。

このため9月から10月にかけて2回目の全国調査を行い、単位をkgに統一できるか、「混合廃棄物」をもっと細かく分別できるかなどをさらに詳しく聞き取りました。この調査により、所在する自治

体によって分別・収集のルールが異なる、廃棄物の集積スペースが狭く細かい分別が難しい、廃棄物業者がkgでの計量に対応していない、といった各局の課題がさらに明らかになりました。今後は資源・廃棄物の一元管理に向け、集積スペースの効率的な運用や廃棄物業者との契約の見直しなどに取り組んでいきます。

環境配慮を公共放送（メディア）で働く人の基本的な姿勢に

リモートワークの推進や、環境に配慮したオフィスの構築等、ワークスタイル・ライフスタイルの見直しも進めています。

気候変動関連の研修の実施

環境配慮を公共放送（メディア）で働く人の基本的な姿勢と位置づけ、気候変動関連の研修を実施したり、eラーニングのコンテンツを作成したりしています。



ウェビナー「オールNHKで考えるエコプロダクション」



新採用者研修

マイボトルの推進

職員やスタッフ一人一人の環境への意識向上のため「マイボトル」を推進しています。放送センターに給水スポットを設置し、2022年度は500mlのペットボトル約63万5,000本分の利用がありました。全国の放送局でも給水スポットを設置するところが増えていきます。



NHK